

全国青年ボランティアセンター ニュースN06（宮城版） 5月5日

若林区・岩沼市・亶理町でボランティア

「住民が助かるためにももっとボランティアしたい」

4日も青年ボランティアのメンバーは仙台市若林区、岩沼市早股、亶理町でボランティア活動にとりくみました。

○聞き取りで頼まれた畑と納屋と畳の片づけをやりました——岩沼市（兵庫）

岩沼では2チームに分かれて行動しました。2日から始めているお宅では、2.5mプールほどの畑一面の泥出し作業をしました。でも、泥と元々の畑の土との見分けがむずかしく作業がすすみません。午後からは若林区から駆けつけた兵庫のメンバーの応援もあり、ほぼ終わることができました。

もう1チームは、1日の聞き取りで依頼されたおばあちゃんの家周りの片づけ、納屋の片づけ、畳はがしなどをしました。納屋の中には、魚の死がいもあり異臭も出ています。納屋のゴミを出しながら、必要なものを仕分けて布でふき部屋にいれました。水にぬれなかった着物や、三つあるタンスのうち、一番被害の少なかったものを残しましたが、あとはほとんど捨ててしまいました。

作業が終わっておばあちゃんは、「よくきれいにしてくれました。ありがとう」と感謝してくれました。

○床板をはがし、床下にもぐりこんで泥出し——仙台・若林（宮城・兵庫・静岡）

若林では宮城、兵庫のメンバーと駆けつけた静岡のメンバーが3日に引き続いて庄司あかり候補者から紹介をうけた住宅2件の泥出し作業を行いました。

床板をバールなどではがし、床下の泥を撤去しました。泥はまだ水分を含んでいて重く、スコップにへばりつきます。また、床板の下にはハリが格子状に張り巡らされ、身動きがなかなかとれず、床板をはがせない部分にも泥が溜まっています。そこで、同行していた共産党のふなやま由美仙台市議をはじめメンバーが床下の狭い部分にもぐりこみ、中から泥をかき出し、バケツリレーで泥を取り除いていきました。若林では引きつづき、被害にあった家屋の片づけを進めていきます。

ボランティアに参加した学生のMくんは「とにかく泥かきだった。僕たちのようにボランティアがもっと集まれば住民の人も助かると思った」と感想を話します。

○イチゴのビニルハウス、「必ず復興を報告したい」——亶理町（大阪）

大阪のメンバーも2日から始めている亶理町のイチゴ農家のビニルハウスの泥出しを行いました。引きつづき、乾燥してブロック状に固まったヘドロを手分けして運び出していきましたが、まだ1/5くらいしか片付きませんでした。

大阪のメンバーはこの日夕方に仙台を出発して帰路につきます。最後に3日間ボランティア活動したイチゴ農家の家主さんと交流する時間をとりました。家主さんから涙を流しながらの「本当にありがとうございました。必ず復興させてみなさんにご報告します」という言葉に大阪のメンバーも思わず涙を流しました。